

YELL 癒え～る

仕事の合間に、ほっとひと息。
働く人の“癒し”マガジン



「ほっ。」と エピソード

Vol.5

企業の採用と人財育成を支援する会社、「採用と教育」。

その代表・半田真仁が、日々現場で出逢い、心動かされたエピソードをご紹介します。

今年の6月。福島から世界一のアスリートが生まれました。彼は、アテネで開かれた2011年スペシャルオリンピックス夏季世界大会の5000mで金メダルに輝いた実力の持ち主です。(この大会は知的発達障がいのある人の自立や社会参加を目的としています。)今回は、福島県郡山市の飲食店で働いているTさんをご紹介します。

彼が陸上競技を始めたのは高校2年生の時。もともと走ることが好きだった彼は、中距離(800m～5000m)を専攻します。進路指導の先生と「全国大会でメダルをとる！」と約束をしますが、一度目の大会では7位という結果でした。厳しい練習に耐えかね、何度か「もう陸上をやめよう。」と思ったこともありましたが、約束をしたのにそれを守れない自分が嫌で、「約束をした以上、必ず叶えたい！今やらなくていつやるんだ！やめるわけにはいかない！」と気持ちを新たに練習に打ち込みます。恩師とも呼べる先生と二人のコーチとの約束を守るため、Tさんは走り続けました。2度目の全国大会では、1500mで銀メダル、800mでは金メダルという快挙を見事に成し遂げたのです。

そしてTさんは、高校卒業後すぐに飲食店で働き始めます。「この飲食店で働くのが楽しみだった。」と彼は言います。なぜ、この飲食店だったのか。この飲食店との出会いは、Tさんが高校生の時の実習がきっかけでした。実習中、玄関の掃除を指示され「きれいにしても、どうせすぐ汚れるのに。」と彼は思いました。すると、そんな気持ちを社長に見破られ、「中途半端な気持ちなら、やらなくていい。」とガツンと叱られたそうです。それが悔しくて、Tさんは徹底的に玄関の掃除をしました。その後、彼の気持ちに変化が現れます。「ここで働きたい。本気で自分を叱ってくれる、この熱い会社で働けたらうれしい。きっと楽しい。絶対プラスになる。」と思うようになったのです。

実習後、彼は学校の進路指導の先生にその想いを話し、高校卒業後、その飲食店で働くことが決まります。

そして飲食店で働き始めて2年目の今年6月。Tさんはスペシャルオリンピックスの5000mに出場したのです。以前、何のために走るのかと聞かれたら、「自分のため。」と聞いていたTさん。

しかし、この飲食店で仕事をするによって、仲間たちに出会うことで、また3月11日の震災によって、彼の考えは大きく変わりました。

「福島のために走ろう。」と決めたのです。スペシャルオリンピックスも「福島が元気になるように。」という気持ちで走っていたと言います。

また、それだけではなく、今まで自分を支えてくれている人たち、恩師たちのために走りたい、結果を出したいと思うようになります。

日本からスペシャルオリンピックスに出場したのは、全部で75人。福島県から参加したのは彼一人。知り合いはいません。アテネという異国の地で、不安やさみしさを感じていたそうです。しかし、そんな彼を勇気づけてくれていたものがあります。それは、日本から応援し続けてくれる仲間の存在、そして彼らの想いが詰まったTシャツでした。

このTシャツには、
「精一杯自分の力を出し切って来い！」
「世界一をとって来い！」
「福島はがんばってるぞ！」
「ヒーロー(Tさんのあだ名)ならピンチを救える！」
……など、温かく勇気づけられる仲間たちのメッセージが。「このTシャツを着ていると、本当に元気づけられた。」とTさんは言います。

いよいよスペシャルオリンピックス本番当日。Tさんは緊張の渦の中にいました。とてつもない緊張だったそうです。高校の時とは背中にあるものが全く違っていただけ。ところが、スタートラインに立った時、それまでの緊張は消えていきました。

その上、何だか気持ちが楽になってきたのです。そして、合図とともにスタート！走っている時は、何の緊張もなく、ただひたすら走ることに集中していました。「自分のイメージ通りの走りができて、本当に気持ちよかった。」とTさんは言います。一番でゴールした時は、金メダルをとったということよりも、イメージ通りに走れたことがうれしくて、後からそのことに気付いたそうです。

「金メダルがとれたのは、応援してくれたみんなのおかげ。確かに緊張はしていたけど、仲間たちみんなと走るんだ、と決めて走ったらメダルが取れたんです。」と話してくれました。

帰国後、Tさんの考え方に変化が現れます。世界には、レベルの高い人がたくさんいると改めて感じたことで以前と比べると、目線・見方が変わってきたというのです。➤

反対に、変わらないこともあります。
「決めたことはやる。」ということ。「やらなかったら絶対にできないままだから。」と彼は言います。
また、飲食店に入社してから、仕事と陸上には共通点がある、ということに気づきました。
それは、「つらいことも多いけれど楽しいことがたくさんある。」ということ。
そして彼には、走る時、仕事をしている時に決めていることがあります。それは「**どんな壁にぶち当たっても、あきらめない。**」こと。「**目の前の壁を乗り越えた時は本当にうれしくて、また顔晴(がんぼ)ろうって気持ちになるんですよ。**」と彼は言います。

Tさんの夢は料理人になることです。
「一口食べた瞬間、思わず笑っちゃうような料理を出す、魔法のお店にしたいんです。」とTさんは本当にうれしそうに話してくれました。
「オープンキッチンにしたい。」とか、「こんな料理を作りたい。」とか、しっかりした計画を持っています。努力家で感謝の気持ちをいつも忘れないTさんなら、きっとその夢を実現させることでしょう。

休みの日でも、彼は「今日はお店が忙しそうだな。」と思うと、出社し働くそうです。
また、インタビュー中もスタッフさんの動きに気を配り、アドバイスをされていました。その心配りがとても印象に残っています。
なぜそんなに心配りができるのかと聞いてみたら、「特に意識はしていないんです。ただ、人のためになりたい。共有したいと思っています。」という答えが。その気持ちを持っているから、自然と心配りができるのだと思いました。

実は、彼の採用が決まるまでに、何度も話し合いが重ねられたそうです。彼と出会い、「いっしょに働きたい。」と思い、採用を決めたからこそ、これからの新しい出会いにつながっていくのではないのでしょうか。



半田真仁(はんだしんじ)

——「採用と教育」代表

広島県出身。社員研修や新卒採用支援など手がける。地元、中小企業から県内外の上場企業まで、人財育成のサポーターとして飛び回っている。

ほっ。とストーリー

人には、人それぞれの人生があり、100人いれば、100通りの歴史や物語があります。ここでは、そんな数々の人物伝の中から、一人ピックアップしてご紹介いたします。

非常識が世界を変える

あなたは、こんな男を友にできるだろうか？

自分勝手に頑固。
負けず嫌いで口が悪い。
理想が高く、完璧主義。
知識もないのにえらそう。

ある青年はそんな変な高校生に会った。
しかも2人は、名前が同じ。

青年は、自分とは容姿も性格もまったく正反対の変な男になぜか、ひかれた。

やがて、その変な男はゲーム会社に就職した。
変な男は、自分には知識がないからと、自分の代わりに青年に仕事をやらせた。

その結果、「ブロックずし」というゲームが完成。

この経験がきっかけとなり、
青年は自分でコンピュータをつくりあげてしまう。

しかし、ゲーム会社は
そのコンピュータにまったく関心を示さなかった。

一方、変な男は
そのコンピュータに計り知れない可能性を見出した。
そして、青年に会社をつくらうと言った。

変な男は、自分の車を売って資金をつくってきた。
青年は、宝物だったプログラム計算機を売った。

青年の名は
スティーブ・ウォズニアック、25歳。

変な男の名は
スティーブ・ジョブズ、21歳。

2人はガレージで小さな会社を設立した。
会社の名前はアップル。

それは常識をくつがえす
世界最強のパソコンメーカーの誕生だった。

彼らの情熱は
コンピュータに革命を起こした。

「簡単にインターネットにつながる
コンピュータをつくらう」

「ポケットに音楽ライブラリーを入れて
持ち歩けるようにしましょう」

彼らのアイデアは人々の生活を変えた。
そして、世界を変えた。

世の中は非常識によって進化する。

常識で夢は描けない。
常識で可能性は見出せない。

見えないものが見えるから変なヤツ。
いつも変なヤツが世界を変えてきた。

常識を捨てよう！
人生は可能性であふれている。

今回の物語

「情熱思考」
中経出版、2010
是久 昌信 著 より抜粋



コラム

2人が Apple 社を設立するときのあるエピソードである。

ウォズニアック氏は Apple 社の設立に弱腰だったのをジョブズ氏が「一度くらい失敗したっていい。それよりも俺は一度会社を作ったことがあるんだぜと言えることのほうが大切さ。」と言って口説いたそう。

人と違うことをすることに不安を感じてしまうこともあるが、一歩踏み出すか否かで、世界は大きく変わる。少しのきっかけがあれば、きっと一歩踏み出せる。そして、その一歩はきっと世界の誰かが求めているものなのだ。

もし、「きっかけ」と「可能性」がイコールだとしたら、ちょっとしたことから、大きなものが生まれるのかもしれない。
まずは一歩前に進んでみようではないか。

スティーブ・ジョブズ

(Steven Paul Jobs 1965-2011)

アップルコンピューター社創設メンバーのひとり。自社の株式公開後、20代でフォースの長者番付けに載り、話題となる。その後、自分が引き抜いて社長にしたジョン・スカリーにアップルを追われるが、1996年業績不振のアップルに復帰。97年に暫定 CEO、2000年より CEO に。プレゼンテーションのすばらしさ、ライバル企業の経営者をもひきつける人間的魅力で知られる。

こころ 「ほっ。」と ミュージック。



森 源太

1978年10月11日 長崎県西彼杵郡時津町生まれ。

シンガーソングライター。

全国でのワンマンライブ、イベントへの出演、小学校～大学、専門学校などでの講演活動などを行い、年間のライブ数は150本にのぼる。

現在までにオリジナル CD5枚、DVD2枚を製作、発売。

BEST&NEW アルバム『DIAMOND』(12/25発売予定)を現在製作中。

HP→<http://www.morigenta.net/>



シンガーソングライターの森源太さん。 きらきら熱くてカッコいい大人なんです、この方。

大学1年生の時、友だちの影響を受け、源太さんはギターに夢中になります。内気な彼にとって、実はそれまで音楽は苦手なものでした。しかし、「はじめは下手だったけど、ギターを弾けることが、歌えることがうれしくて楽しくてしかたない。」と感じるようになります。次第に「音楽を、好きなことを、楽しいことを仕事にできたら、しあわせだろうなあ。」と思い、そして彼は東京に行くことを決意。「なるべく後悔したくない。あきらめるとしても、やるだけやったぞ！と納得してあきらめたい。」そう思ったのです。

周りの人たちは、みんな彼を応援してくれました。ご両親は、「あなたの人生を生きていきなさい。」と背中を押してくれたそうです。たくさんの気持ちを抱え、上京。しかし、彼の歌を聞いてくれる人は、ほとんどいませんでした。辛くて情けなくて、もうやめようと何度も思いますが、その度に「自分は納得してるか？」と問いかけると、「まだまだ」という答えが自分に返ってくるのです。何歳までやったらあきらめる、いつまでやったらあきらめる、ではなく「どうすれば自分は納得するか」ということが彼の中にありました。

そして、「このままではダメだ。何かしよう！」そう思った彼は、所持金3,000円とギターを片手にママチャリで日本一周の旅に出ます。それは挑戦と覚悟の旅でした。「自分はこのくらいのことができた」という証を手に入れるための挑戦、そして、もしこの日本一周の旅が何らかの理由で達成できなかつたら、音楽をあきらめようという覚悟です。

旅は毎日が新しい出会いでした。「毎日が本当に楽しくて、ありがたくて、自分は生まれてきてよかった。自分でよかった。」と強く感じたそうです。たくさんの人と出会い、たくさんのやさしさ、応援をもらい、彼は1年7ヶ月間の日本一周の旅を達成。日本中にたくさんの仲間ができました。その時の出会いは今もつながっているそうです。

東京に戻った彼は、再び路上で歌い始めますが…。状況は前と同じ。聞いてくれる人がいないのです。

自信を無くした彼にある人が問いかけます。

「お前はこれからどうしたいんだ？本当に自分の歌で生きていきたいと思っているのか？」と。さらにその人は言います。

「中途半端にするな！お前の歌はみんなの心に届くから！夢をファッションにするな！歌だけで生きるという覚悟を決めろ！そうするのなら応援するから！」と。その言葉にはっとさせられた彼は覚悟を決めます。

歌で生きていこうと。

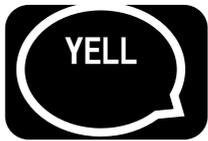
歌で生きると決めた彼。携帯を開くと、そこには旅で出会った人たちのメモリがぎっしり詰まっていました。彼のかけがえのない宝物です。その人たちに歌で生きていくことを宣言し、「どこにだって歌いに行くから、歌わせてください！」と伝えます。すると、歌を歌いに呼んでもらって、歌って、そこからさらに人がつながって広がっていきました。今、自分の歌で生きていくと決めてから、6年がたちます。

彼は、「覚悟を決めたかどうか大きい。」といいます。勇気を出したことで、色々なことがつながっていったのだと。「すべてのことはつながっていて、つながりをくれたものは、分かれ道に立った時、自分に勇気をくれるんです。」とも話してくれました。また、彼が歌うとき、一番大切にしているのは「心をこめて歌うこと。」です。「もちろん上手く歌うことも大切だけれど、誰かのために、何かのために、相手を想って歌いたい。」と彼はいいます。音楽活動と共に講演活動もしている彼は、子どもたちに、夢を諦めないこと、大人は楽しい、仕事も楽しい、生きていることの楽しさ、人生の輝きを伝えています。彼の真っ直ぐな気持ちは、聞く人に、子どもたちに勇気の灯火をつけてくれます。

彼の次の目標は、2012年9月16日、大阪で1,000人ライブを成功させることです。

「今までたくさんの人に助けられてきた。もうやるしか、勇気出すしかない。やると決めたら、全力で動けるんです。」と話されていました。彼がたくさんの方から応援され愛されているのは、彼自身がいつでも一生懸命に全力で動き、きらきら輝いているからではないかと、感じました。





癒しの写真館

Vol.5 実はいっしょに暮らせるんです



出典:らばQ <http://labaq.com/>

ぬぼっとしたところが何ともかわいいカピバラ。
 実は普通の家庭で育てることができるんです。
 こんな子が家にいたら、「癒え〜」ですね。
 ちなみに世界最大のげっ歯類であるカピバラは
 大きさ105cm〜135cm、体重35kg〜65kgにまで成長します。



「ほっ。」とで「HOT」なあの人に会いに行こう！！

世界一のアスリートに会ってみたいと思いませんか？
 会えます！会うことができます！！
 今回の「ほっ。」とエピソードでご紹介したTさんが働いているお店は、この3店舗のうち
 のどれか！！（場所はすべて福島県郡山市内）
 どのお店かはナイショです。ぜひ、足を運んでみてください！！
 お店のスタッフさんが全員、最高の笑顔であなたをお待ちしています。
 おいしい楽しい食事をして、Tさんが「ここで働きたい！」と感じたお店の空気・元気をあ
 なたも感じてみませんか？

- ①しゃぶしゃぶ温野菜 横塚店
HP→<http://www.onyasai.com/>
- ②ステーキハンバーグ&サラダバーけん 郡山店
HP→<http://www.steak-ken.com/>
- ③とんかつ&サラダバーよしかつ 郡山店
HP→<http://www.yoshikatsu.jp/>



最近の採用と教育

①こけだまの空と苔玉の世界

～元気になって心がすっきりスイッチが入る事務所展～

11月14日～28日まで「入ると元気にすっきりチャー
 ジされる事務所」を目指し、ポストカードと苔玉の展示
 をさせていただきました。事務所の天井を見上げると
 空が広がり、隣にはかわいい苔玉が。
 ポストカードは宮本そらさん、苔玉は ぼんさいや「あ
 べ」さんのものです。

期間中、来場された方の笑顔を写真に撮らせていた
 だきました。現在、その時の写真を集めた「笑顔の写真
 展」を開催中です。

②笑いヨガ

「笑いヨガ」をご存知ですか？
 最近、じわじわ来ているんです。おもしろいです。
 先日、笑いヨガの研修を受け、半田が「ティーチャー」
 スタッフの1人が「リーダー」の資格を取得。研修時や
 事務所で時々しています。これから笑いヨガを色々取
 り入れた活動を展開していく予定です。
 笑いヨガとは、簡単にいうとヨガの呼吸法を取り入れた
 笑いの健康体操です。誰でもできて、はじめての人とし
 ても、すぐに打ち解け合うことができます。
 笑いヨガを学んで、改めて笑いの大きな力を感じまし
 た。笑えるって大切な事ですね。
 笑って楽しく仲良くなれる笑いヨガ、ぜひいっしょにやり
 ませんか。ホッホッハハハ (ノ ≧▽≦)ノ

編集後記

『YELL』冬号をお届けさせていただきます。お読み頂き
 まして、ありがとうございます。少しでも、「癒された
 〜。」と笑顔になって頂ければ、とてもうれしいです。

今回、Tさんと源太さんの記事を書かせて頂いて一
 番感じたことは、「本気はカッコいい」ということです。
 「本気」には、すごい力があると改めて感じました。取
 材させて頂きましたTさん、源太さん、本当にありがとう
 ございます。

冬になり毎日寒いですが、みなさまのおかげで心は
 いつもホカホカです(・ω・)ありがとうございます。
 次回の『YELL』もどうぞお楽しみに！



「YELL(癒え〜)」について

いつもお仕事をがんばっている皆さまのもとへ、
 小さな微笑みと、癒しのひとときを。
 そんな想いでつくったのが「YELL(癒え〜)」です。
 このニュースレターは、これまでにご縁をいただいた皆さまへ
 「採用と教育」幸報部より随時お届けしております。
 お忙しい日々の中、いつでもお気軽にお手にとっていただけ
 たら嬉しいです。

皆さまの職場が、思いやり優しさ、そして笑顔でみちあふれますよ
 うに。
 真っ白な霜柱が立って、寒さが身にしみわたる季節になって参りま
 した。暖かくして、風邪など引きませぬようお気をつけ下さい。

■お問い合わせ

採用と教育 広報部

〒960-8053 福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま6階

TEL 024-529-5153

E-mail info@saiyoutokyouiku.com